



室内や屋外の音声や話し声を評価する方法

都市・建築空間における音声情報伝達の評価

技術分野分類 23020：建築環境・建築設備・音環境・環境心理生理

技術キーワード 音・振動環境、環境心理生理、建築設備

産業分類 E-06：総合工事業 H-42：鉄道業 O-81：学校教育

内 容	概要	音声による情報伝達は人のコミュニケーションにおいて非常に重要である。音声や話声が話者に正確に伝わっているかを、計測器による物理評価指標と人の聴感で判断する主観評価指標「聞き取りにくさ」「聞き取り間違い」で評価する。
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	教室や会議室などの建築空間の評価に使っていた物理評価指標に、実音場での主観評価手法を適用させた。このことで、実際の使用状況における音声や話声が人の感覚で直接評価できる。物理指標も同時に測定を行えば、より詳細な検討も行える。
	本技術の有用性	教室などの学校に適用すれば「教育の質の確保」の評価が行える。駅やバスターミナル、商店街などの案内放送へ適用すれば「街づくりのユニバーサルデザイン」の評価が行える。
関連情報 (図・表・写真等)		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>無指向性音源による音響計測風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>教室における主観評価実験風景</p> </div> </div>
適用可能製品		教室や講演などにおける音声情報伝達の評価と話者の発話方法の評価。 公共交通機関の案内放送などの音声による情報伝達の評価と改善方法の検討
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	西川嘉雄 環境都市工学科 教授
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	地域共同テクノセンター 026-295-7117 / 026-295-7124 nrtc71@nagano-nct.ac.jp

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2018年11月16日